

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	20-016	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Physicians' norms and attitudes towards substance use in colleague physicians: A cross-sectional survey in the Netherlands 同僚の薬物乱用に対する内科医規範や姿勢：オランダにおける横断研究		
<b>執筆者</b>		
Geuijen P, de Rond M, Kuppens J, Atsma F, Schene A, de Haan H, et al.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS One. 2020 Apr 3;15(4):e0231084. doi: 0.1371/journal.pone.0231084. eCollection 2020.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
医師、薬物、アルコール、乱用、同僚		32243472
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 医師のアルコールや薬物の乱用（薬物使用障害：SUD）は長い間、議論されてこなかった。SUDの同定には、同僚間のモニタリングおよび自由な議論が必要であるが、医師は同僚と SUD について議論することを避けることが多い。今回我々は SUD に対する医師の姿勢や規範、そして同僚の薬物乱用を推測した場合の意図的な行動と実際の行動について調査した。		
<b>方法：</b> 王立オランダ医師会内科医委員会が実施した“医師の中毒”に関するオンライン横断研究にて調査した。全体で 1685 名（47%）の内科医から回答があった。同僚の薬物乱用を推測した場合の行動に関連する要因の検討にはロジスティック回帰分析を用いた。		
<b>結果：</b> 大多数の内科医は SUD は誰にでも起こり（67%）、弱々しさを示すものではなく（78%）、治療すべき病気である（83%）と回答した。また、工作中的飲酒・薬物（工作中的飲酒：99%、待機義務中の飲酒：91%、仕事前 8 時間以内の飲酒：77%、仕事前 8 時間以内の違法薬物：97%）は受け入れ難いと捉えていた。ほとんどの回答（97%）は同僚に対して薬物乱用を推測した場合に行動をとる意向を示し、29%は過去に薬物乱用を推測したことがあり、その 65%は実際に行動をしたと回答した。実際に行動した場合の要因には男性、高い年齢（オッズ比 1.81；95%信頼区間 1.20-2.74、オッズ比 1.03；95%信頼区間 1.01-1.05）が挙げられた。		
<b>結論：</b> 全体の 1/3 の内科医は過去に同僚の薬物乱用を推測していた。大多数の内科医は薬物乱用を推測した場合に行動をとる意向を示し、実際に 2/3 は行動していた。SUD の徴候や症状に関しての医学的な教育や同僚に対する声掛けの方法を指導し続けることで、同僚の薬物乱用の推測やその他の懸念に対応するための知識や自信、倫理的責任を高める可能性がある。		